

# シンラの旅-7 「信州・木曾谷」 森林鉄道が消えた日



エッセイ  
芦原 伸



# SINRA

# CONTENTS

各見出しリンク

▶ **SINRA-1 2014.9**  
「小豆島」 オリーブカントリー

▶ **SINRA-2 2014.11**  
「秋田」 マタギの里へ

▶ **SINRA-3 2015.1**  
「富岡」 富岡製糸場の歩き方

▶ **SINRA-4 2015.3**  
「北海道」 北海道ワイン紀行

▶ **SINRA-5 2015.5**  
「小笠原」 黒潮の孤島鶴来島漂流

▶ **SINRA-6 2015.7**  
「大台ヶ原」 熊野古道をいく

▶ **SINRA-7 2015.9**  
「信州木曾谷」 森林鉄道が消えた日

▶ **SINRA-8 2015.11**  
「霊峰月山」 死と再生の小宇宙

▶ **SINRA-9 2016.1**  
「丹後」 古代王国と、絹をめぐる道

▶ **SINRA-10 2015.3**  
「秩父」 絶滅危惧種再生へ、開ける道

▶ **SINRA-11 2016.5**  
「佐賀」 大海を越えた胡蝶の夢

▶ **SINRA-12 2016.7**  
「津軽」 ブラキストン幻の海

▶ **SINRA-13 2016.9**  
「五島列島」 クジラたちの海

▶ **SINRA-14 2016.11**  
「飯田」 天空の里、遠山郷

▶ **SINRA-15 2017.1**  
「北海道」 ジンギスカンをめぐる冒険

▶ **SINRA-16 2017.3**  
「宮城県」 猫たちの聖地

▶ **SINRA-17 2017.5**  
「京都」 神が授けた、いのちの水

▶ **SINRA-18 2017.7**  
「熊楠」 の森をめぐる冒険

▶ **SINRA-19 2017.9**  
「カナダ」 極北の大地に生命が燃える

▶ **SINRA-20 2017.11**  
「宮崎」 神楽仮面の謎を探る

ご購入

 Fujisan.co.jp  
雑誌がオンライン書店

ご購入

 amazon.co.jp  
プライム



信州・木曾谷紀行

# 森林鉄道が消えた日

森林面積約93パーセントを誇る長野県木曾郡。そこはかつて豊富な森林資源を運ぶための輸送列車「木曾森林鉄道」が走っていた地だ。人は森とどのように関わり合いながら生きてきたのか。約40年前の廃線跡が、その答えを静かに物語る。

文◎芦原 伸(ノンフィクション作家)、撮影／戸川 寛  
協力／長野県、上松町役場産業観光課、中部森林管理局木曾森林管理署

樹齢300年の木曾ヒノキが残る赤沢自然休養林では、倒木から新しい芽が育つ「倒木更新」の様子が見られる。親から子への世代交代の瞬間だ



# 木曽谷の旅

今回の「SINRAの旅」で訪れた  
木曽郡上松町と王滝村の中から、  
自然や文化が楽しめるスポットを、**一挙紹介。**  
木曽の澄んだ空気と水、そして森の恵みを  
存分に味わう旅へ出かけよう。



## Cafe 流れ星

赤沢の森の中にひっそりと建つナチュラル&カントリー風のカフェ。野菜たっぷりのランチプレート、国産小麦粉のシフォンケーキ、季節の手づくり菓子が楽しめる。

■ 上松町小川14923-1  
☎ 0264-52-3373  
■ 11:30~18:30(4月中旬~11月中旬まで)  
■ 月曜、第1火曜(祝日営業、翌日振替休みあり)



## 越前屋そば店

創業390年、日本で二番目に古いといわれるそば屋。かつて松尾芭蕉や喜多川歌麿も訪れたという。漆塗りの二段器に盛られた白いそばが特徴。

■ 上松町上松寝覚1710  
☎ 0264-52-2081  
■ 10:30~17:30(平日)、10:30~18:30(土日)  
※冬季は10:30~17:00まで  
■ 木曜



## 王滝食堂

イノシシとブタを掛け合わせたイノブタ料理が食べられる食事処。イノブタは王滝食堂名物で、しっかりした脂身、濃い味、臭みがほとんどなく、食べやすいのが特徴。

■ 王滝村東2708-2  
☎ 0264-48-2738  
■ 11:00~20:00  
■ 水曜



## 自然湖ネイチャーカヌーツアー

自然湖は土砂災害によって生まれた天然の湖。波がなく穏やかで流れもない湖なので、カヌー初心者にもおすすめ。幻想的な立ち木を見ながら森林浴が楽しめる。

■ 王滝村  
☎ 0264-48-1208  
■ 9:30~12:00(午前の部)、13:30~16:00(午後の部) ※要予約  
■ 不定休  
■ 大人6,000円、小学生4,000円、幼児3,000円



## 池田木材

木曽ヒノキの風呂、家具、木工品などを扱う製材所。木曽ヒノキは年輪幅が狭く均等で強度に優れており、肌触りが良い。

■ 上松町正島町1-30  
☎ 0264-52-3366



## 森の宿 去来荘

赤沢自然休養林内にある大人限定の宿。別館の三木荘は今上天皇が皇太子時代に宿泊したこともある。山菜や川魚を使用した創作料理のコースが人気。

■ 上松町大字小川179林小班  
☎ 0264-52-2602  
■ 去来荘9,500円(税込)、三木荘11,500円(税込)  
※いずれも1泊2食付き、18歳未満は宿泊不可

夫婦二人  
開田高原で  
ペンション経営  
移住者  
寺本勝司さん  
京子さん

## ロジ上天気

1993年、名古屋市から開田高原に移住してきた寺本夫妻はペンション経営を始めて早22年。当時、移住者は珍しく、地元の人からは「どこの馬の骨がきた」とも言われた。集落には「五人組」と呼ばれる制度があり、仲間に入らないとゴミを捨てることすらできなかったが、3年かけて徐々に受け入れられた。近所付き合いを大事にし続ける勝司さんは「五人組の「伍」はお互い様の「互」と語る。ロジでは薪ストーブが置いてあるラウンジでジャズを聴きながらお客さんたちと酒を酌み交わすのが至福の時だ。「ここに住んでよかった」と京子さん。二人のロジは今日も上天気だ。

■ 木曽町開田高原西野6322-419  
☎ 0264-44-2131  
■ レギュラーディナーコース9,500円(1泊2食付き)



## 木曽の森と出会う旅へ

木曽谷一帯を囲む豊かな森。環境は良質な木曽ヒノキを産出するだけでなく、地元の食や工芸品、観光資源などいろいろな文化を育んできた。木曽を旅するということは、さまざまな形で森と出会うということだ。前ページ(115ページ参照)で紹介した赤沢自然休養林の散策のほか、森の恵みを存分に味わえる、SINRA編集部のおすすめスポットを紹介したい。

まずは上松町・赤沢自然休養林内にある「森の宿 去来荘」。樹齢300年の天然林に囲まれた小さな山荘だ。夜は公園が閉鎖され周囲が無人となるため、真っ暗の闇と静寂の中でゆったりと過ごせる、

大人のための空間。山菜の季節には、オーナーが毎日山で採ってくるタラの芽、コシアブラ、フキノトウを使った、新鮮な山菜料理を味わえる。木曽ヒノキのお土産を買おうなら「池田木材」に行ってみよう。日本全国の社寺建築を行う池田木材では、テーブルやチェアなどの家具から、収納ボックスなどの小物まで製作しており、比較的安価な値段で手に入れられる。人気商品は打ち水に使う「八角手付き桶」。天然ヒノキの香りと打ち水で、暑い夏を快適に過ごすことができそう。

アクティブに体を動かすなら、王滝村の「自然湖ネイチャーカヌーツアー」へ。標高1100メートル、深い森に囲まれた「自然湖」は1984(昭和59)年の長野県西部地震の土石流によってできた湖だ。神秘的な空間が広がる湖面でゆらゆら揺られながら森林浴を楽しむのも贅沢だ。森には人を癒す力がある。何か特別なことをするのはなく、ただ森に入っただけでいい。自然と体が軽くなり、すっきりした気分になれる。